

# 清水寺周辺における帰宅困難観光客避難誘導計画の改善に関する 研究～避難シミュレーションを用いた検証を通して～

Study of The Evacuation Plan for The Concerning Stranded Tourists on Arounded Area of  
Kiyomizu Temple, Kyoto

杉山貴教<sup>1</sup>・大窪健之<sup>2</sup>・金度源<sup>3</sup>・林倫子<sup>4</sup>

Takayuki Sugiyama , Takeyuki Okubo, Dowon Kim and Michiko Hayashi

<sup>1</sup>立命館大学大学院 理工学研究科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1)

Graduate student, Graduate School of Science and Engineering, Ritsumeikan University

<sup>2</sup>立命館大学教授 理工学部都市システム工学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1)

Professor, Ritsumeikan University, Dept. of Civil Engineering

<sup>3</sup>立命館大学専門研究員 衣笠総合研究機構歴史都市防災研究所 (〒603-8341 京都市北区小松原北町58)

Postdoctoral Fellow, Kinugasa Reserch Organization, Ritsumeikan University

<sup>4</sup>立命館大学助教 理工学部都市システム工学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1)

Assistant professor, Ritsumeikan University, Dept. of Civil Engineering

A lot of people from around the world visit historical city for sightseeing. The tourists do not know geography in touring places. The tourist is easy to lost their way back to safety place because of these reason. In order to reduce the damage caused by the earthquake disaster, both measures and hardware and software side are important. The research area is Kiyomizu Temple around in Kyoto. Kyoto City Government planned 'Emergency site' in December, 2013. However, the plan has not certain evacuation plan simulation. This study evaluate the current evacuation plan which is based on 'Emergency site' for suggesting more safety evacuation plan.

**Keywords :** *evacuation plan, SOARS, Kiyomizudera-Temple, Earthquake*

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景

数多くの文化遺産を有する歴史都市は、多くの観光客が訪れる観光都市でもある。そのため、歴史都市の防災においては一般的な都市防災に加えて、地理不案内な観光客の避難誘導についても計画をおこなう必要がある。

京都市は年間5000万人もの観光客が訪れる日本有数の観光都市である。特に清水・祇園地域、嵯峨・嵐山地域では京都市内でも代表的な観光地であり、それぞれの観光客のピーク数は、清水・祇園地域で約48,000人、嵯峨・嵐山地域では約26,000人と想定されている。そこで京都市では、観光客に特化した全国初の帰宅困難者対策を推進するため「京都市帰宅困難者観光対策協議会」を設置し、各地域の自治連合会、自主防災会や、寺院・神社、商店街、観光施設等の参画を得て、大地震など、交通がマヒして多くの帰宅困難者が発生するような災害時に、観光客の安全を守るため、清水・祇園地域及び嵯峨・嵐山地域における「帰宅困難観光客避難誘導計画」を策定した。地震災害時は、「帰宅困難観光客避難誘導計画」に基づいて制定された「観光客緊急避難広場」に、観光客を速やかに誘導し一時的に避難させる必要がある。し

かし避難計画に沿ったシミュレーションなどが実際に行われておらず、既往研究においても清水地域から周辺の広域避難場所までの避難シミュレーションは行われているが<sup>1)</sup>、今回の計画により新しく定められた「観光客緊急避難広場」への避難シミュレーションを通じた研究は行われていない。既存の誘導方針は通路の状況などによって決められているだけであり、不確定な状態である。

## (2) 目的

本研究では、観光客のピーク数が最も多い清水・祇園地域の清水寺周辺に焦点を当て、「帰宅困難観光客避難誘導計画」により定められた「観光客緊急避難広場」に、観光客がどのように避難するかを、出口<sup>1)</sup>らが開発している社会シミュレーションモデル構築言語SOARS (Spot Oriented Agent Role Simulator) を用いてシミュレーションを行う。その際に「帰宅困難観光客避難誘導計画」によって定められている避難誘導が適切であるか検証し、「観光客緊急避難広場」への別ルートの提案、より良い避難誘導の方針を提案することを目的とする。

## 2. 避難シミュレーションモデルの構築

### (1) シミュレーションに用いたソフトウェアについて

本研究の避難シミュレーションには、出口ら<sup>2)</sup>による社会シミュレーションモデル構築用言語SOARS (Spot Oriented Agent Role Simulator) を使用した。SOARSは、エージェント、スポット、ロール(役割)の3つの要素を用いてモデルを構築していく。エージェントとは意思決定主体を、スポットはエージェントの存在できる空間を表しており、ロールはエージェントとスポットに対するルールを定義するものとして用いる。エージェントはスポット間を移動することができ、エージェントもスポットもロールによって定義されたルールに従う。SOARSで避難シミュレーションモデルを構築する場合、エージェントは避難者を、スポットは避難者の滞在できる施設や移動できる通路などを表し、ロールでは避難者の挙動や施設・通路の状態(混雑しているか、通行可能か等)を定義する。避難場所となるスポットを決め、避難者となるエージェントがそのスポットに向かって移動するように設定し、そのスポットにエージェントが辿り着いた時点で避難者の避難が完了する。避難者全員が避難完了した時点でシミュレーション終了とする。通路の幅や面積などから、それぞれに対応するスポットにおいて、一度に流入可能な人数や許容人数を設定した。移動時間に関しては、時間変数を用いて、そのスポットにその時間だけ滞在するという形で表現した。例えば、移動に10分かかる通路を表現する場合、対応するスポットに10分間エージェントが滞在し、10分経過したら次のスポットに移動するという形で表現した。また、避難者の経路選択については、経路の分岐点で確率を設定して各エージェントを分岐させた。

### (2) 避難シミュレーションにおけるパラメータ設定について

対象地域は、「帰宅困難観光客避難誘導計画」によって予め設定された、清水寺周辺の避難誘導計画図1に基づき設定する。避難誘導計画図2に示す清水寺周辺地域とし、施設および通路をスポットで表現し、避難者(観光客)となるエージェントを配置した。地震災害発生により、周囲の状況を避難者が危険だと認識し、全員が一斉に避難を開始すると想定する。エージェントはシミュレーション開始と同時に、設定した「観光客緊急避難広場」に向かって避難を開始する。避難経路選択時は、避難者が誘導員の指示に全て従うものとして考える。誘導員は発災直後すぐに誘導につくものとして考える。誘導員を設けていない分岐点では、避難者は等確率で避難経路を選択するものとする。本研究での対象地域の「観光客緊急避難広場」は、清水寺、京都市清水坂観光駐車場、清水門前駐車場の三箇所である。それぞれの避難場所の面積と許容人数は表1に示す。避難場所の収容人数については京都市が「帰宅困難観光客避難誘導計画」を制定した際に定めた値を使用した。また、「帰宅困難観光客避難誘導計画」では「観光客緊急避難広場」に指定されている清水寺の収容可能人数が、発災時に清水寺に存在する観光客の人数を考慮されていない状態で設定された収容可能人数である。よって本研究でも発災時清水寺内に滞在する観光客はシミュレーション上において考慮しないものとする。避難者の初期配置に関しては、現地調査で人数を計測した結果より、各スポットにおける観光客の分布状況を求め配置した。統計上観光客が多いとされているのは11月の休日の正午過ぎ<sup>1)</sup>となっている。よって本研究では、2014年11月29

日の正午過ぎ<sup>1)</sup>に、7人で同時に10分間各通路の中央地点を通過している観光客数を計測した。より正確な人数を計測するために間隔を空け、5回に分けて計測を行い、その平均人数をパラメータとして使用する。その結果を表2に示す。また、各スポットに設定したパラメータを表3に示す。避難者の移動速度に関しては、建設省<sup>3)</sup>の値を参考に、坂道や階段で0.78m/s、その他で1.3m/sを用いた。スポットの許容人数に関しては、道路の幅員、距離から面積を算出し、一人当たりが占める面積を建設省<sup>3)</sup>の値を参考に0.25m<sup>2</sup>として算出した。スポットの滞在人数がスポットの許容人数をオーバーした混雑時においても通常の移動速度で移動すると考える。避難者の総数については、人数計測結果が約3000人であったのでそれよりも多めの3500人としてパラメータを設定した。



図1 「帰宅困難観光客避難誘導計画」による避難誘导图<sup>4)</sup>



図2 対象地域<sup>5)</sup>

表2 人数計測結果

場所	人数					平均
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
産寧坂	614	671	661	691	646	657
松原通り	1089	1115	1171	1129	1106	1122
清水坂	561	563	548	552	582	561
五条坂	225	272	234	245	289	253
茶碗坂	286	309	284	302	308	298
通路1	48	46	81	59	44	56
通路2	67	43	58	49	41	52
合計						2998

表1 避難場所の面積と収容可能人数

名称	面積(m <sup>2</sup> )	収容可能人数(人)
清水坂観光駐車場	8039	4020
清水寺門前駐車場	1480	740
清水寺	2700	1350

表3 各スポットでのパラメータ

	距離	幅員	面積	許容人数	移動時間
	(m)	(m)	(㎡)	(人)	(秒)
通路1	130.4	4.70	612.88	2452	100
通路2	136.8	2.70	369.36	1477	105
産寧坂1	84.6	3.12	263.95	1056	108
産寧坂2	119.3	3.32	396.08	1584	153
清水坂1	102.4	3.90	399.36	1597	131
清水坂2	88.7	3.80	337.06	1348	114
清水坂3	156.5	4.99	780.94	3124	201
五条坂1	19.9	7.00	139.23	557	15
五条坂2	116.6	7.00	816.20	3265	149
松原通り	211.6	3.90	825.24	3301	271
茶碗坂	176.2	5.10	898.62	3594	226

### 3. 「観光客緊急避難広場」への避難シミュレーションについて

#### (1) シミュレーション結果

まず、「帰宅困難観光客避難誘導計画」に基づいてシミュレーションをした結果（通常避難）、清水寺の最終避難者数は1446人となり、収容可能人数の1350人を大きく超えてしまうことが判明した。京都市清水坂観光駐車場の最終避難者数は1868人、門前駐車場の最終避難者数は186人であった。清水寺以外は収容可能人数を大きく下回っていることがわかった。一番混雑している通路は松原通りから清水寺にかけての部分であった。結果は表4に示す。

表4 シミュレーション結果（通常避難）

清水寺周辺モデル(通常避難)					
清水寺		観光駐車場		門前駐車場	
避難時間	避難者数	避難時間	避難者数	避難時間	避難者数
0:00	0	0:00	0	0:00	0
1:00	0	1:00	59	1:00	44
2:00	0	2:00	143	2:00	54
3:00	0	3:00	362	3:00	108
4:00	13	4:00	508	4:00	129
5:00	101	5:00	759	5:00	134
6:00	221	6:00	1002	6:00	151
7:00	366	7:00	1201	7:00	171
8:00	529	8:00	1368	8:00	186
9:00	649	9:00	1508	9:00	186
10:00	746	10:00	1587		
11:00	824	11:00	1647		
12:00	899	12:00	1707		
13:00	959	13:00	1767		
14:00	1019	14:00	1827		
15:00	1079	15:00	1868		
16:00	1139	16:00	1868		
17:00	1199				
18:00	1259				
19:00	1319				
20:00	1379				
21:00	1439				
22:00	1446				
23:00	1446				

\* 避難完了時間（黄色）、避難者数が収容可能人数をオーバーした時間（赤色）

#### (2) シミュレーション結果の考察と改善案

(1)のシミュレーション結果より、松原通りから清水寺にかけての部分が非常に混雑し、全体の避難完了時間を長くさせているため、松原通りの混雑解消するために避難誘導の改善が必要であることがわかった。また2-(2)で述べたように、清水寺の収容可能人数は、発災時に清水寺に滞在している観光客の人数を考慮していないので可能な限り清水寺周辺から清水寺へと避難する避難者を減らす改善案が必要である。以下に避難誘導の改善案とその結果を記す。

a) 茶碗坂からの門前駐車場への避難ルートの開放

「帰宅困難観光客避難誘導計画」では、茶碗坂に滞在している避難者は最寄の門前駐車場には避難せず、清水寺に避難するという計画になっている。その結果、最も人数が多い松原通りと茶碗坂の避難者が一斉に清水寺に流入するので清水寺の収容可能人数が大きくオーバーしてしまうことがわかる。また、門前駐車場のキャパシティにはまだ余裕がある。そこで茶碗坂から門前駐車場への避難を可能にすることによって清水寺の収容可能人数問題を改善することが出来ると考える。誘導図を図3に示す。シミュレーションを行った結果の避難完了時間と避難者数の表を表5に示す。結果より、清水寺の収容可能人数をオーバーすることはなかったが避難完了時間は22分となった。



図3 誘導図 (a) <sup>5)</sup>

表5 シミュレーション結果 a)

清水寺周辺モデル(門前駐車場誘導)					
清水寺		観光駐車場		門前駐車場	
避難時間	避難者数	避難時間	避難者数	避難時間	避難者数
0:00	0	0:00	0	0:00	0
1:00	0	1:00	59	1:00	44
2:00	0	2:00	143	2:00	47
3:00	0	3:00	326	3:00	101
4:00	13	4:00	463	4:00	132
5:00	101	5:00	715	5:00	141
6:00	221	6:00	951	6:00	164
7:00	345	7:00	1149	7:00	189
8:00	435	8:00	1291	8:00	204
9:00	495	9:00	1432	9:00	204
10:00	569	10:00	1543		
11:00	648	11:00	1603		
12:00	715	12:00	1663		
13:00	775	13:00	1723		
14:00	835	14:00	1783		
15:00	895	15:00	1843		
16:00	955	16:00	1843		
17:00	1015				
18:00	1075				
19:00	1135				
20:00	1195				
21:00	1255				
22:00	1257				
23:00	1257				

b) 避難経路選択確率の変更

産寧坂から避難してきた避難者を清水坂、五条坂、松原通りの分岐で松原通りへの避難経路選択確率を0として、清水坂、五条坂への選択確率を変更する。それにより産寧坂から松原通りへの避難者数を減らすことができ、清水寺への避難者数を減らし、避難者の収容可能人数問題、避難時間の軽減が改善されると考える。誘導図を図4に示す。シミュレーションを行った結果の避難完了時間と避難者数の表を表6に示す。結果より、清水寺の避難者数は、1303人と避難者収容可能人数に近くなったが、避難完了時間は21分となり、わずかながら避難完了時間を早めることが出来るようになった。



図4 誘導図 (b) <sup>5)</sup>

表6 シミュレーション結果 b)

清水寺周辺モデル(経路選択確率変更)					
清水寺		観光駐車場		門前駐車場	
避難時間	避難者数	避難時間	避難者数	避難時間	避難者数
0:00	0	0:00	0	0:00	0
1:00	0	1:00	59	1:00	40
2:00	0	2:00	143	2:00	40
3:00	0	3:00	328	3:00	94
4:00	13	4:00	465	4:00	154
5:00	101	5:00	713	5:00	214
6:00	221	6:00	958	6:00	259
7:00	341	7:00	1167	7:00	300
8:00	461	8:00	1307	8:00	340
9:00	581	9:00	1446	9:00	340
10:00	699	10:00	1565		
11:00	759	11:00	1625		
12:00	819	12:00	1685		
13:00	879	13:00	1745		
14:00	939	14:00	1805		
15:00	999	15:00	1857		
16:00	1059	16:00	1857		
17:00	1119				
18:00	1179				
19:00	1239				
20:00	1299				
21:00	1303				
22:00	1303				

c) 茶碗坂からの門前駐車場への避難ルートの開放と避難経路選択確率の変更

上記の a)と b)で提示した改善案を複合し、シミュレーションを行う。誘導図を図5に示す。それにより、避難時間の短縮と、清水寺への避難者数の削減が期待されると考える。誘導図を図5に示す。シミュレーションを行った結果の避難完了時間と避難者数の表を表7に示す。結果より、清水寺への避難者人数は1115人と大きく削減できた。また避難完了時間も20分と2分間の短縮が可能となった。



図5 誘導図 (c) <sup>5)</sup>

表7 シミュレーション結果 c)

清水寺周辺モデル(門前駐車場誘導&経路選択確率変更)					
清水寺		観光駐車場		門前駐車場	
避難時間	避難者数	避難時間	避難者数	避難時間	避難者数
0:00	0	0:00	0	0:00	0
1:00	0	1:00	59	1:00	44
2:00	0	2:00	143	2:00	59
3:00	0	3:00	347	3:00	113
4:00	13	4:00	481	4:00	186
5:00	101	5:00	735	5:00	306
6:00	221	6:00	978	6:00	408
7:00	335	7:00	1188	7:00	485
8:00	395	8:00	1331	8:00	506
9:00	455	9:00	1473	9:00	506
10:00	515	10:00	1589		
11:00	575	11:00	1649		
12:00	635	12:00	1709		
13:00	695	13:00	1769		
14:00	755	14:00	1829		
15:00	815	15:00	1879		
16:00	875	16:00	1879		
17:00	935				
18:00	995				
19:00	1055				
20:00	1115				
21:00	1115				

d) 松原通りの避難者の避難先を清水寺と清水寺観光駐車場に分割する誘導方法

通常避難のシミュレーション結果より、清水寺への避難に時間を要する原因は松原通りの観光客が非常に多く、一斉に清水寺へと避難するためである。そこで、松原通りの中間点に避難誘導ポイントを設置し、松原通りに滞在する避難者の避難先を、清水寺観光駐車場と清水寺に分割することにより、清水寺への避難時間が短縮され、全体の避難時間が短縮されると考える。誘導図を図6に示す。シミュレーションを行った結果の避難完了時間と避難者数の表を表8に示す。結果より、清水寺への避難者は大幅に減り時間も短縮されたが、清水坂が混雑するため全体の避難時間が25分となり、通常避難よりも長くなってしまった。



図6 誘導図 d) <sup>5)</sup>

表8 シミュレーション結果 d)

清水寺周辺モデル(松原分割)					
清水寺		観光駐車場		門前駐車場	
避難時間	避難者数	避難時間	避難者数	避難時間	避難者数
0:00	0	0:00	0	0:00	0
1:00	0	1:00	59	1:00	41
2:00	0	2:00	130	2:00	41
3:00	0	3:00	261	3:00	95
4:00	13	4:00	381	4:00	107
5:00	101	5:00	652	5:00	116
6:00	221	6:00	914	6:00	152
7:00	341	7:00	1110	7:00	166
8:00	461	8:00	1290	8:00	166
9:00	574	9:00	1421		
10:00	608	10:00	1541		
11:00	608	11:00	1661		
		12:00	1781		
		13:00	1953		
		14:00	2073		
		15:00	2174		
		16:00	2234		
		17:00	2294		
		18:00	2354		
		19:00	2414		
		20:00	2474		
		21:00	2534		
		22:00	2594		
		23:00	2654		
		0:24:00	2714		
		0:25:00	2726		
		0:26:00	2726		

以上より、「観光客緊急避難広場」への最終避難時間が一番短く、かつ各観光客緊急避難広場の収容可能人数をオーバーせず、清水寺への避難者数を軽減できた改善案c)の、茶碗坂からの門前駐車場への避難ルートの開放と避難経路選択確率の変更を組み合わせた誘導方法を、「帰宅困難観光客避難誘導計画」において最適な誘導方法として提案する。

## 4. 結論

### (1) まとめ

本研究では京都市が策定した「帰宅困難観光客避難誘導計画」を基に、京都市東山地区清水寺周辺を対象とし、地震災害時の避難者（観光客）の避難シミュレーションを社会シミュレーションモデル構築用言語SOARSを用いて行った。「帰宅困難観光客避難誘導計画」に沿って避難シミュレーションを行うと、清水寺の避難者収容可能人数を大きくオーバーし、松原通りの混雑により総避難時間が長くなってしまったことがわかった。そこで他の誘導方針を提案するべきであると考えた。以下に避難者数と総避難時間の緩和するための方法を示す。

- a) 茶碗坂からの門前駐車場への避難ルートの開放
  - b) 避難経路選択確率の変更
  - c) 茶碗坂からの門前駐車場への避難ルートの開放と避難経路選択確率の変更
  - d) 松原通りの避難者の避難先を清水寺と清水寺観光駐車場に分割する誘導方法
- 以上の誘導方針をシミュレーションを行い再現した。

シミュレーション結果より、a)の茶碗坂からの門前駐車場への避難ルートの開放は、清水寺の避難者数は1257人となり、収容可能人数をオーバーすることはなかったが、避難完了時間は22分となった。これより、収容可能人数の問題は改善されたが、松原通りの混雑は解消されず全体の避難完了時間は変わらなかった。b)の避難経路選択確率の変更は、清水寺の避難者数は1303人となり、収容可能人数間近になってしまった。しかし全体の避難完了時間は21分と時間が短縮された。以上の二つの方法を組み合わせた方法をc)の茶碗坂からの門前駐車場への避難ルートの開放と避難経路選択確率の変更とした。結果は清水寺の避難者数は1115人となり収容可能人数の問題は大きく改善され、清水寺への避難者数も軽減された。避難完了時間も20分とさらに改善された。d)の松原通りの避難者の避難先を清水寺と清水寺観光駐車場に分割する誘導方法については、清水寺への避難者数は608人となり清水寺への避難者数も避難時間も大きく改善されたが、松原通りにいる避難者の半数が清水坂へ流れたため、清水坂から清水坂観光駐車場へのルートが非常に混雑してしまい、全体の避難完了時間が25分と、通常避難よりも長くなってしまった。

よって、観光客緊急避難広場への最終避難時間が一番短く、かつ各観光客緊急避難広場の収容可能人数をオーバーせず、清水寺への避難者数を軽減できた改善案c)の茶碗坂からの門前駐車場への避難ルートの開放と避難経路選択確率の変更を最善の避難誘導方針として提案する。誘導を行うにあたっては、産寧坂と五条坂の合流点と門前駐車場の入口（茶碗坂側）と茶碗坂の清水寺入口に誘導者を最低限配置すれば円滑に避難が完了すると考える。その際の誘導者については、門前駐車場の入口には駐車場職員の事務所があり、清水寺入口付近に清水寺警備団の詰所が存在するため、発災直後に誘導につけると考えられる。

### (2) 今後の課題

門前駐車場（茶碗坂側）の入口は車も進入できる広いスロープとなっており、円滑に避難を完了させることが出来ると考える。京都市が策定した各避難場所（駐車場）の収容人数はそれぞれ駐車場に車が無い前提で考えられているため、清水坂観光駐車場や門前駐車場などに車が駐車されていることを考えてのシミュレーションを行う必要がある。誘導者の配置に関しては、清水祇園地域の各自警団の方々が誘導につくため、毎年行われている防災訓練での避難誘導の連携も行う必要があると考える。清水寺の収容可能人数は、発災時に清水寺に滞在する観光客を考慮されていないので、これを考慮した人数を収容可能な避難場所を清水寺に新たに作る必要があると考える。また、清水寺周辺には地元住民が多いので地震災害時の地元住民も含めた避難誘導シミュレーションが必要であると考えられる。本研究における誘導評価方法の観点については、避難時間と避難者数と避難所の収容可能人数の関係の二点だけで限定的であるが、地震災害

による道路閉塞や火災により通行が不可能なケースを考慮していないため、本研究で提示した避難ルートが使えない場合や安全性も考慮した避難誘導シミュレーションが必要と考える。

**謝辞：**本研究の実施にあたり、立命館大学 情報理工学部 情報コミュニケーション学科 仲谷善雄教授、立命館大学 理工学部 都市システム工学科 伊津野和行 教授、京都市役所、京都市行財政局防災危機管理室の職員の皆さまや、ヒアリング調査にご協力くださった清水寺の関係者の皆さまには貴重な資料やご意見を賜りました。東京工業大学総合理工学研究科 知能システム学科専攻 出口弘 教授が開発されたSOARSをご提供いただきました。心より感謝いたします。本研究は、立命館大学歴史都市防災研究所「研究拠点形成支援プログラム」によるものであります。記して謝意を表します。

#### 参考文献

- 1) 伊津野和行・小林祐一郎・近藤智・久能木慎治・崔青林：『観光地における地震火災からの避難に関する基礎的検討』，第31回土木学会地震工学研究発表会，東京大学生産技術研究所，2011年11月18日
- 2) 田沼英樹・出口弘：『エージェントベース社会シミュレーション言語SOARSの開発』，電子情報学会論文誌，Vol.J90-D，No.9，pp.2415-2422，2007年
- 3) 建設省：階避難安全検証法に関する算出方法等を定める件，建設省告示第1441号，第2（歩行速度），2000年
- 4) 京都市行財政局防災危機管理室：清水・祇園地域帰宅困難観光客避難誘導計画，京都市印刷物第253124号，平成25年12月発行
- 5) 電子地図帳ゼンリン13，2014年12月11日